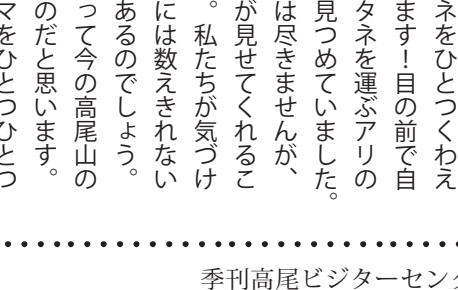
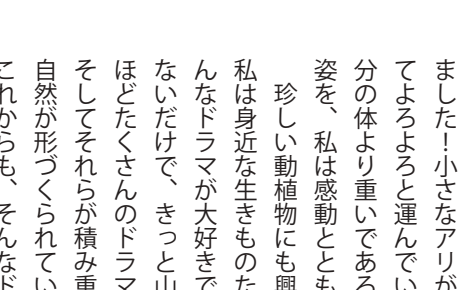
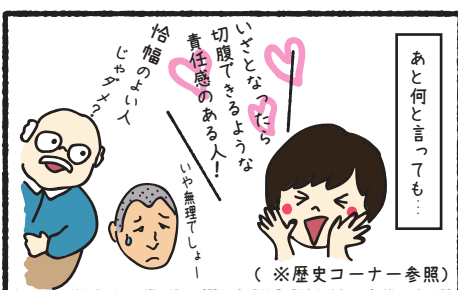
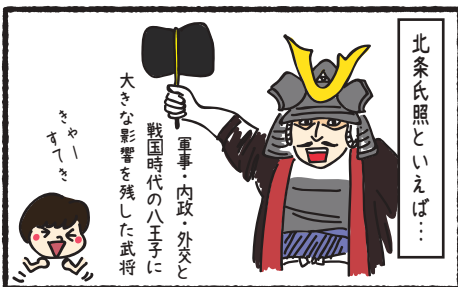


たかおさん

「私の理想の人」の巻



高尾ビジターセンターからメールマガジン配信中!!

高尾ビジターセンターでは、今年度からメールマガジンの配信を始めました。このメールマガジンにご登録いただけますと、当施設で開催予定のイベント(自然教室・自然講座)情報をお受け取りいただけます。是非ご登録下さい!!

【登録・退会方法】

メールマガジン配信サイト「まぐまぐ」からご自身で、登録・退会できます。
※ 「まぐまぐ」という配信サイトを利用しています。アドレスを登録すると「まぐまぐニュース」なども配信されるようになります。それらが不要な場合は、お手数ですが、配信を停止してください。

【個人情報について】

登録された個人情報は、「まぐまぐ」の個人情報取り扱い規定によって管理され、当ビジターセンターには、いっさいの情報は登録されません。

高尾ビジターセンター メールマガジン

検索



夏の高尾山、熱中症にご注意!!

「山だからきっと涼しい!」なんていう期待をあっさりと裏切る夏の高尾山。熱中症による救急搬送の事例も少なくありません。水分をこまめに摂取することを意識しましょう。

スミレのタネを運ぶアリの話

高尾山の春を彩るスミレは、夏から秋にかけてタネをつけます。実はスミレのタネにはアリの餌になる物質がくっついていて、アリはそれが欲しくてタネを巣に持ち帰ります。そしてアリに運ばれた場所でスミレは芽を出す...これがスミレの、タネを散布する戦略だと考えられています。このスミレとアリの関係はよく知られていて、私も本や図鑑では幾度となく目にしていました。しかし実際に見たことは一度もなく、ずっと観察して確かめたいと思っていました。

スミレのタネは弾けて飛ぶので、ばらまかれたタネを見つけたのは難しいのですが、この間少し採集できたので、ビジターセンター前の石垣の上に置いてしばらく様子を見ていました。すると...来ました、来ました! 小さなアリがタネをひとつくわえてよろよろと運んでいきます! 目の前で自分の体より重くてもあるうたネを運ぶアリの姿を、私は感動とともに見つめていました。珍しい動物にも興味は尽きませんが、私は身近な生きものたちが見せてくれるこんなドラマが大好きです。私たちが気づけないだけで、きっと山内には数えきれないほどたくさんあるのかもしれない。そしてそれらが積み重なって今の高尾山の自然が形づくられているのだと思います。これからも、そんなドラマをひとつひとつ見つけては、皆さんにご紹介できたらと思っています。(解説員 福世)

高尾山山頂から発信!

のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

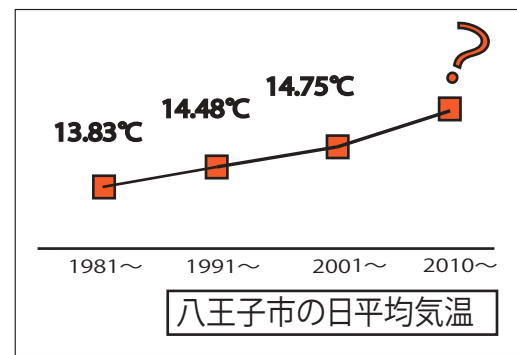
vol.40 季刊
2015年夏号

生きものたちの暑さ対策

39.0°C

過去5年間に高尾ビジターセンター前の温度計で計測して一番暑かった日。平成23年7月3日(日)

毎年、夏になるとよく目にする「猛暑」の文字。高尾山も例外ではありません。高尾山のある八王子市の1日の平均気温は、10年ごとに見ると少しずつ上昇しています。



※日本気象協会のホームページより、八王子市のデータをもとに作成しました。

八王子ももっと暑くなる?

では、そんな高尾山の夏をすみかとする野生の生きものたちは、どのように夏を乗り切っているのでしょうか。生きものたちが暑さをしのぐわざをご紹介します!

水で冷やす

ニホンミツバチなどは、巣の中が暑くなりすぎるのを防ぐため、水を口に含み、巣のなかにまいて翅(はね)であおぎ、温度を下げようとします。



夏眠かみん

ナナホシテントウは気温が27°C以上になり、アブラムシが減ってくると夏眠に入ります。

うらやましい。まさに夏やすみ!

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。

ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

生きものたちの暑さ対策

キョカキョク!

ホトトギスは午前3時過ぎから鳴き始めます。すごいなー。



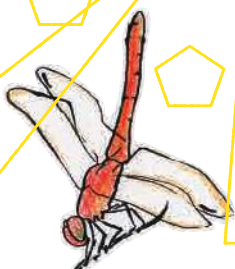
早起きする

野鳥は日の出とともに、さえずりはじめ、気温が高くなるお昼ごろには、鳴きやみます。



陽に当たらない

アカトンボの仲間、暑い日は止まるときなるべく体に日光が当たらないように尾を高くあげます。チョウの多くも、日中は葉裏などの日影で休みます。



まるで逆立ちだ！
ためしにやってみます？



熱を逃がす

植物は、根から吸った水を葉から蒸発させ、気化熱で葉の細胞を冷やしている



換毛かんもう

哺乳類の多くは、夏に冬のふわふわした毛がぬけて通気性のよいスカスカした毛皮になります。全体的な見た目も変わり、ほっそりして見えます。



冬毛



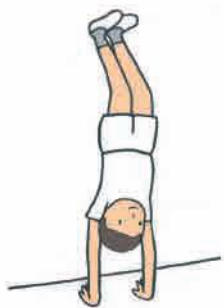
毛がえて
激やせ!

夏毛

自分にあった暑さ対策で快適登山!

あなたが目にした生きものたちは、暑さの対策をしていませんか。私たち人間も、すでに同じような対策をしているかもしれませんね。生きものたちの工夫を参考に、自分に合った暑さ対策をして、夏の高尾山を快適に登山しましょう。また、自然の中に生息する生きものたちは、活動が気温に影響されることが少なくありません。このまま気温が上昇すると、暑さが影響して死んでしまう生きものが出てくるかもしれません。地球が温暖化しないための対策も、できることから始めましょう!

温暖化対策も忘れずに。

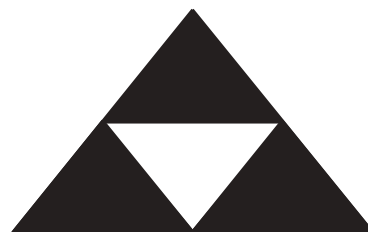


高尾山と北条氏

戦国時代、関東の覇者と言われその名を轟かせた「北条氏」。北条氏の政策は、高尾山に大きな影響をもたらしました。彼らにとって高尾山とは、どのような存在だったのでしょうか。

北条氏は、北条早雲を祖とする、関東の戦国大名です。彼らはその後、五代に渡りこの地で支配を続けていくのですが、高尾山との繋がりがより強くなるのは三代目氏康の頃からとなります。高尾山にある薬王院のご本尊として知られる飯綱大権現は、当時武田信玄、上杉謙信らの大名達から戦の神として信仰を集めていました。氏康もまたそのうちの一人であり、薬師堂の修復料として土地を寄進するなどしています。そしてその想いは子の氏照にも継承され、氏照もまた竹林伐採禁止の制札を出すなどして高尾山の保護に力を入れることとなるのです。また、北条氏にとって高尾山を含む現在の八王子市周辺の地域は、領国防衛のための重要な場所であったとも言えます。氏照を城主とする滝山・八王子城は、甲州方面から敵国の進軍を受ける(本拠小田原へ向う)際の最前線に位置する拠点です。高尾山を含む森深い山々の急峻な地形は、敵軍の侵略を防ぐのに大きな役割を果たしていたのです。

ついに北条氏に迫ります(小田原征伐)。この戦いで八王子城が攻め落とされ、本拠である小田原城も陥落。小田原城で立て籠っていた氏照とその兄氏政(この時の北条当主)は秀吉より切腹を命じられ、北条氏はいよいよ滅亡してしまふのです。戦国時代終焉のきっかけともなったこの大きな戦いの後、彼らの領地は徳川家康に引き継がれます。徳川家康の統治以降、関東は大きな発展を遂げていきますが、その背景には北条氏の優れた政策があったとされています。彼らにとって信仰の地であり、また政治・軍事の面において国を守るための要の地でもあった高尾山。その高尾山への想いは、北条氏滅亡後も徳川の時代を経て現代まで引き継がれ、緑豊かな今の高尾山の姿を形づくっています。



↑北条氏家紋三つ鱗(北条鱗)

高尾山の

ふしぎ

vol.2

ナナフシモドキの七不思議

暑い夏の高尾山、涼しい木陰にある低木の枝をのぞくと不思議な生き物に出会えます。

不思議一 ぶんぶん震える小枝の正体は?

それは「ナナフシモドキ」。じっと動かない昆虫だけれど、ちゃんと触ると体を震わせる。その姿は、「私は風にそよぐ小枝ですよ」と言っているように見えるけど、本心はどんなのかな...

不思議二 足が簡単に取れちゃった!

つかまえる時に、ぼろっと取れてあせってしまふことも。実は危険が迫ると自ら切断して、本体は逃げてしまう作戦らしい。

不思議三 ナナフシなのに七節ない!

ナナフシモドキも昆虫なので、頭胸腹の3節しか見つからない。昔、7にはたたくさんという意味があり、そこからついたという説もあるけど...

不思議四 名前の「モドキ」は何のモドキ?

図鑑には「ナナフシ・ナナフシモドキ」と併記されることも。何故わざわざ「もどき」を付けたのか? ナナフシだけじゃだめなのか?

不思議五 メスしか見つからない!

オスがいないでも卵が産めるし、子供もできる。オスはいずこへ!

不思議六 どうやって入っていたの?

なが〜い体なのに小さな卵。孵化する姿はまるで発芽! どうすれば、この中に取まるの?

不思議七 不思議は続くよ、どこまでも...

調べて知るほど「なんで?」という言葉が出てしまう不思議な生き物。皆様もぜひこの不思議な生き物「ナナフシモドキ」を高尾山でじっくり観察してみてください。皆様からの七つ目の不思議をお待ちしております。



解説員 佐藤多寿子